

発刊のことば

学校法人梅檀学園が、当時、全国的に見ても稀な社会福祉の専門大学として東北福祉短期大学を開設し社会福祉学科を設立したのは、昭和三十三年（一九五八）、今を去ること五十年前のことである。以来、四年制大学への衣替え、研究所の設置、学部学科の増設、実学実習の場としての福祉施設の開設等々、研究教育と施設設備両面にわたって拡充発展を遂げ、今では総合福祉学部・健康科学部・子ども科学部・総合マネージメント学部の四学部九学科、大学院、さらには通信教育部（学部・大学院）をも擁する福祉の総合大学へと進化を遂げている。

このような福祉系の大学図書館に、独立した目録を必要とするほどの和漢書が蔵せられていることを意外に思われる向きもあるかもしれない。実は本学の前身をたどると、百三十三年前の明治八年（一八七五）に仙台市に設立された宮城県曹洞宗専門学支校に遡るのである。この専門学支校が、曹洞宗第二中学院、梅檀中学校、梅檀学園高等学校、東北高等仏教学院等々の変遷を経て、東北福祉大学に至ったという歴史的経緯がある。この明治以来の学園の歴史の中で蓄積されてきたのがこの目録に掲載した和漢書類である。学園の性格上、仏典が中心となるが、その他の漢籍や和書も多少蓄積されている。いわば、本学の歴史的歩みを端的に現しているのが本書なのである。

今、大学は広く社会にその知的資源を還元することが求められている。本学も、その本領である福祉の分野を中心に情報発信や大学開放、社会貢献事業等、さまざまな取り組みを進めており、この和漢書目録の作成もその一環に位置づけられる。この目録の完成によって、本学所蔵の和漢書の全貌がはじめて明らかとなった。本学としては本書が関係者によって広く活用され、多少なりとも教育や研究に裨益するものとなる

ことを期待する次第である。

平成二十年三月吉日

東北福祉大学 学長 萩野浩基

発刊の辞

明治八年（一八七五）に設立された曹洞宗専門支校に淵源をもつ本学には、仏典や漢籍を中心に若干の古書が蔵されています。その目録の刊行は長年の懸案でありましたが、及川三千男前館長の多大なご尽力により、ようやく出版に漕ぎ着けることができました。いうまでもなく、図書館の使命は資料の収集、保存、そして利用にあります。その利用の便宜をはかるためには目録を欠かすことはできません。本目録の完成は本学図書館の使命を推進する上で、大変大きな一歩を記したものと言えましょう。ここに改めて及川前館長をはじめとする関係者各位に心より感謝の意を表したいと思います。

今、大学図書館は大きな変革の時代を迎えております。一つは大学の大衆化であり、そしてもう一つはIT化です。特に後者の著しい技術革新は従来の図書館や書籍の概念に根本的な修正を迫っています。しかしながら、いかにIT化が進もうと「物」としての書物を欠いた図書館はありませんし、書物なしに大学図書館が十全なる教育的機能を果たすことは不可能です。本目録の刊行はそのような図書館の原点を確認させるものとなりました。

本目録が少しでも学問と教育の進展に寄与するものとなりますことを心より願ってやみません。

平成二十年三月三十一日

東北福祉大学図書館 館長 高橋 美由紀

序

図書館には、さまざまな目録や書誌が集められている。これは、ある意味で、各種の出版物に対する図書館の最も基本的な情報提供であるといえます。一般に、書籍目録や図書目録とは、図書や書籍等の著作物について、その著者名および書名、さらに出版社や出版年などの書誌的な事項を正確に記録し、索引を付した形で全体が構成されているものであります。しかしながら、それが古書の目録ということになると、ある著作物が、果たして作者自筆の原本か、あるいは、写本なのか、さらには、版元や出版地は、という具合に、時代を異にする書籍の出版記録を正確に把握することはなかなか容易なことではありません。このようなことから、図書目録の作成に当たっては、常に書誌事項を正確に把握する知識や見極めがとても重要なこととなります。特に、各時代の古書籍をその研究対象とする書誌学においては、書籍自体の書史や書誌的記述の把握が最大の関心事であり、表紙・題箋・装幀、大小、紙数、序・跋・筆者、奥付、刊記、作者・撰者、諸本、注釈など、すべてがその研究対象となっております。

さて、本学図書館が、当目録を作成することとなった発端は、何よりも図書館職員の古書に対する強い関心から始まったといえるようです。図書館所蔵図書は、平成十八年度末現在で、三〇万冊となっておりますが、その中に、わずかながら和漢書が含まれています。これは、本学が梅檀学園として大学を開設する際、近隣の宗門から寄贈されたものであるといわれています。したがって、その多くは仏書を主とする漢籍、和古書などで、冊数も千点ほどに過ぎません。しかし、職員有志の古文献にたいする関心とともに、専門的知識を深めたいという一心から、それまで部分的には作成されていた古書目録カードをこの際、再点検を行ない、より正確な和漢書目録として残すということで、この目録作成の第一歩が標されることとなりました。

当初は、職員数名による和漢書についての目録学習会といった雰囲気も併せ持つてその仕事が始まりました。その後、職員の専門的研修や技術の習得も進み、結果として、和漢書目録の作成が、ついにその出版までに結実することになったのは、ひとえに、萱場健之氏（元宮城県図書館資料奉仕部長）による長期間にわたるご指導とご助言の賜物であるということにつきます。このことなしには到底実現できなかったことであり、ここに厚くお礼を申し上げます。

思い起こせば、当目録の作業開始は、平成十二年九月でありました。本学のような小規模図書館にとってのそれは、通常の目録作業とは異質のものでありましたので、各自の業務を行ないながら、この目録作成のために時間を確保することは、かなりの困難を伴いました。しかし、職員同志が何とか工夫をしながら、石川聡子司書、八巻千穂司書が共に最後まで諦めませんでした。書籍一点一点の書誌記述を分析し、記録し、それを集積するという息長く根気の要る仕事を見事に克服し、ついにその完成の日を迎えたのであります。さらに、数次にわたる校正作業も見事に乗り切つて小冊子ながら、その出版行までにこぎつけることができましたことは、まさにわれわれ館員一同の協力の証であり、本学図書館の大きな喜びであります。

最後になりましたが、当目録の出版に当たつて、本学関係者ならびに笹氣出版印刷のご協力に対しまして心より感謝の意を表する次第であります。

平成二十年三月一日

東北福祉大学図書館 前館長 及川 三千男

凡 例

- 一、本書は、東北福祉大学図書館が所蔵する和漢書の目録である。
- 一、ここにいう和漢書とは、和書（日本人の著作）、または漢籍（中国人の著作）の書物の総称である。また漢籍には、日本人が抜粋改編したもの、漢籍に注釈を加えたものは、漢籍に準ずるものとして含める。
- 一、朝鮮人が中国語で著した書物は「韓書」の項目に収録した。
- 一、本書に含まれる図書は、明治期以前に刊行、書写されたものである。ただし明治期以降のものは、和装本を主として含めている。
- 一、本書に収録するものの多くは図書であるが、地図、拓本、文書なども含まれる。
- 一、巻末の索引は、書名の五十音順である。

〈和書〉

分類

- 一、分類は「日本十進分類法新訂9版」によつた。ただし、図書の実態にそつて若干変更したところがある。
- 一、雑書は、「随叢（雑書）」とし、随筆、雑書など広く収めた。それによつて、随筆文学は、ごく文学

的な随筆に限定した。

一、日本儒学は、いわゆる漢学と同義にし、日本人による漢籍の注釈書、研究書などを広く収め、中国思想・哲学は使用していない。

排列

一、分類の排列は、書名の五十音順である。
一、同版本は「又」の字をもって代えた。

目録の記述

一、書名は、原則として本文巻首を採り、巻首によるべきものない時は、目次、巻尾、見返、版心、序文等を参照して定めた。
一、巻数は毎巻首によって決定し、巻数表示のないものは、丁付などを参考にして定めた。
一、残欠本には「残〇〇巻」とし、その後に残存巻数を「存巻第〇〇」と明記した。
一、著者は本姓名をとった。
一、出版事項、刊年、刊行地、刊写の別または印刷方法などを記した。
一、出版者が三人以上みられる場合は、最後の者をとる。
一、刊写の記載は、写本、刊本、自筆本、活版本、銅版印本、石印本などによって表した。

一、刊本や写本の「底本」（拠りどころになった本）を記した。
一、各書目の下に冊数、大きさ（単位は糎）を付した。
一、印記事項については、旧蔵者を注記した。（旧蔵者の蔵書印は可能な範囲にて採取した。）

〈漢籍〉

分類

一、本書の漢籍の分類は、『東京大学総合図書館漢籍目録』に準拠した。ただし、図書の実態にそって若干変更したところがある。
一、新学部は、「日本十進分類法新訂9版」に準拠した。
一、子部の积家類の仏教は「大蔵経」、道教は「道蔵」の分類に準拠した。

排列

一、同類同属内の排列は、ほぼ編者の時代順によった。
一、同一書の注釈考証などは、原書の次にした。
一、同版本は「又」の字をもって代えた。

目録の記述

- 一、書名は、原則として本文巻首を採り、巻首によるべきものがない時は、目次、巻尾、封面、版心、序文等を参照して定めた。別名のある場合は、例えば「牟子一卷卽理惑論」のように、「卽」の一字を補って、別名を記した。
- 一、行状、年譜がある場合は「附録〇〇」と表示する。
- 一、巻数は毎巻首によって決定し、巻数表示のないものは、丁付などを参考にして定めた。
- 一、残欠本には「残〇〇巻」とし、その後に残存巻数を「存巻第〇〇」と明記した。
- 一、人名は、原則として、朝代を冠し本姓名を記した。姓名の明らかでない者は、字や号を記し、全く不明のものは欠名とした。
- 一、出版示項、刊年、刊行地、刊写の別または印刷方法などを記した。
- 一、刊年は元号で記した。刊年が不明でも朝代が推定できるものは、明刊本などと表記した。
- 一、刊写の記載は、鈔本、刊本、拓本、石印本、銅版印本、排印本、景印本などによって表した。
- 一、刊本や鈔本の「底本」(拠りどころになった本)がある場合、「據〇〇」として明記した。
- 一、各書目の下に冊数、大きさ(単位は厘)を付した。
- 一、印記事項については、旧藏者を注記した。(旧藏者の蔵書印は可能な範囲にて採取した。)

東北福祉大学図書館所蔵和漢書目録總目

圖版	倫理學・道德……………九
発刊のことば	教訓……………九
発刊の辞	
序	宗教
凡例	神道……………一〇
	佛教
	總記……………一二
	經典……………一六
	儀範・儀放(佛會)……………一九
	寺院……………一九
	各宗……………二〇
	基督教……………四六
和書之部	歴史
總記	日本史……………四七
隨叢(雜書)……………三	總記……………四七
哲學	金石・金石學……………四八
日本思想……………四	
日本儒學……………五	
心理學……………八	
相法……………八	

歷史地圖	四八
通史	四九
古代	五〇
近世	五一
地方史	五一
仙臺地方史	五一
東洋史	五一
中國史	五二
傳記	
日本	
系譜・家傳	五三
個人傳記	五三
地誌・紀行	
世界地誌	五五
日本	五五

外國	五六
社會科學	
政治	五七
法制	五七
教育	五八
往來物	五八
教科書	五九
風俗・習慣	五九
兵法	五九
自然科學	
和算	六〇
物理學	六〇
天文學	六〇
醫學	六一

工業	
製造工業	六二
產業	
農業	六二
交通	六三
藝術	
繪畫	六四
書道	六四
印譜	六五
能樂	六五
武道	六五
語學	
日本語	
音韻・文字	六六

辭書	六六
文法	六七
作文	六七
讀本・解釋・會話	六八
中國語	六八
梵語	六九
文學	
日本文學	
和歌	七〇
俳諧	七一
歌謠	七一
物語・小說	七二
隨筆	七二
日記	七三
漢詩文	七三
中國文學	七七

漢籍之部

經部

第一經注疏合刻類……………八一
 第二易類……………八二
 第三書類……………八三
 第四詩類……………八三
 第五禮類……………八四
 五三禮總義之屬……………八四
 第六春秋類……………八四
 一春秋左傳之屬……………八四
 第七四書類……………八五
 一大學之屬……………八五
 二中庸之屬……………八六
 三論語之屬……………八六
 四孟子之屬……………八七
 第八孝經類……………八七

第九諸經總義類……………八八
 二諸經授受源流之屬……………八八
 第十小學類……………八八
 一訓詁之屬……………八八
 三各體字書之屬……………八九

史部

第一正史類……………九〇
 一合刻之屬……………九〇
 三注補表譜考證之屬……………九〇
 第二編年類……………九一
 一通紀之屬……………九一
 第四古史類……………九一
 第五別史類……………九一
 第九傳記類……………九二
 一聖賢之屬……………九二
 第十一地理類……………九二
 一總志之屬……………九二

四今地志之屬……………九三
 八水道水利之屬……………九三
 十名勝之屬……………九三
 十一宮殿學校祠墓寺觀名園之屬……………九四
 十二游記紀程路程總記之屬……………九五
 第十四書目類……………九五
 一公庫箚錄之屬……………九五
 二家藏知見之屬……………九六
 第十五金石類……………九六
 一纂錄考證之屬……………九六
 二因地箚錄之屬……………九七
 五義例之屬……………九九
 十繪帛簡牘之屬……………九九

三考訂之屬……………一〇二
 四家訓勸學鄉約之屬……………一〇二
 第四法家類……………一〇二
 第七天文算法類……………一〇三
 一推步之屬……………一〇三
 第八術數類……………一〇三
 四占卜之屬……………一〇三
 第九術藝類……………一〇四
 一書畫之屬……………一〇四
 五製造食品之屬……………一〇四
 第十雜家類……………一〇五
 一雜學之屬……………一〇五
 二勸善書之屬……………一〇五
 第十一類書類……………一〇六
 一彙考之屬……………一〇六
 二摘錦之屬……………一〇六
 第十三釋家類……………一〇七

子部

第二儒家類……………一〇〇
 一議論經濟之屬……………一〇〇
 二性理之屬……………一〇〇

第十四道家類	一三六	叢書部	
集部		第五一姓所著書類	一四九
第一楚辭類	一四〇	第六一人所著書類	一五〇
第二別集類	一四〇	韓書	一五一
一漢魏六朝之屬	一四〇	新學部	
三北宋之屬	一四一	哲學	一五三
四南宋之屬	一四一	佛教	一五三
六明之屬	一四二	歷史	一五四
十清季之屬	一四二	地理・地誌・紀行	一五四
十一近人之屬	一四二		
第三總集類	一四三	圖版解說	
一文選之屬	一四三	藏書印譜	
二各代之屬	一四四	後跋・略年譜	
六詩文之屬	一四五	書名五十音索引	
第五詞曲類	一四七		
五南北曲之屬	一四七		
七曲話之屬	一四八		

和書之部